

HOKKAN REPORT Vol.38

第100期上半期

2024年4月1日～2024年9月30日



ホッカンホールディングス株式会社

(証券コード:5902)

ごあいさつ



代表取締役社長

池田 孝資

第100期連結業績

	中間期	通期予想
売上高	479億円	927億円
前年同期比	3.6%増	
営業利益	44億円	35億円
前年同期比	6.3%増	
経常利益	46億円	38億円
前年同期比	1.0%増	
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	31億円	19億円
前年同期比	1.8%減	

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第100期上半期(2024年4月1日から2024年9月30日まで)の当社グループの状況について、ご報告申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善、好調な観光産業やインバウンド需要の高まりなどを背景に、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、国際的な政治情勢の不安定化やエネルギー価格の高騰などに起因する物価上昇とこれに伴う節約志向、消費者マインドの冷え込み、為替・金融政策の見直し動向など、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

当上半期の清涼飲料業界の状況につきましては、夏場の猛暑に加え、相次ぐ地震や台風被害による防災意識の高まりに伴い、ミネラルウォーターを中心に販売が増加しましたものの、生活必需品の相次ぐ値上げに伴い嗜好品の一面を持つ清涼飲料の買い控えの影響により、前年並みに推移しました。

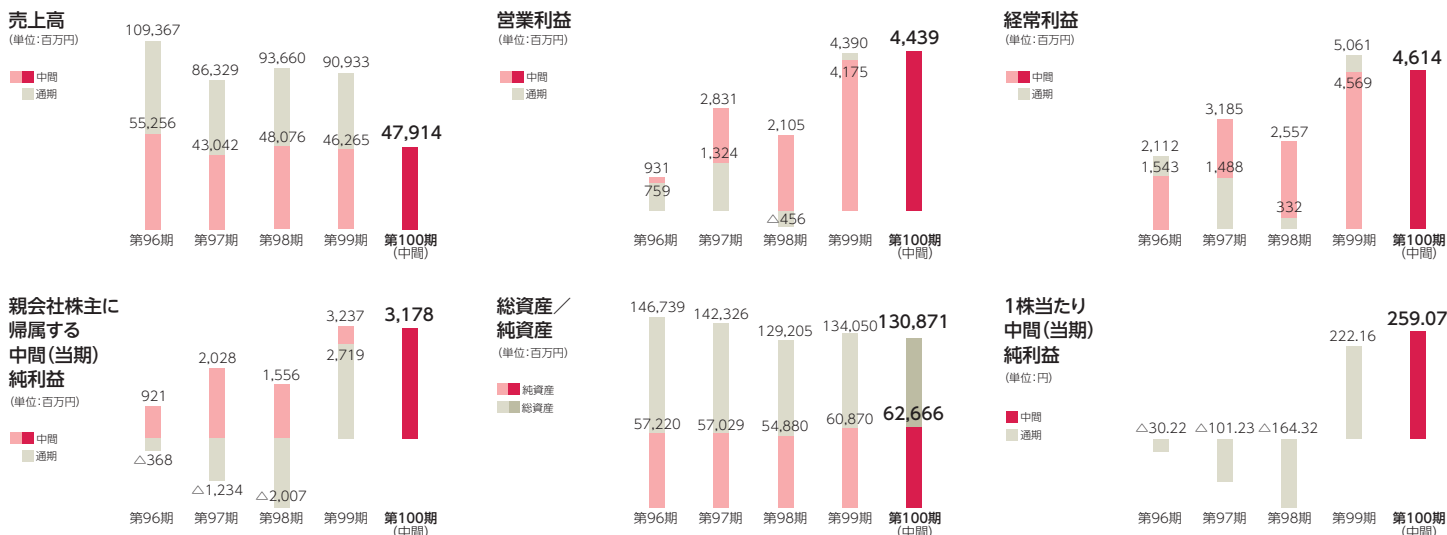
食品缶詰業界につきましては、水産缶詰においてはサバなどの水産原料不足長期化の影響等もあり、前年を下回る結果となりました。

このような状況におきまして、当上半期における当社グループの経営成績は、売上高は479億14百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益は44億39百万円(前年同期比6.3%増)、経常利益は46億14百万円(前年同期比1.0%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は31億78百万円(前年同期比1.8%減)となりました。

下半期においては、物価上昇の継続や海外景気の下振れ、また国際的な政治情勢の不安定化など先行き不透明な状況が続くものとみられます。

当社グループにおいては、国内では、さらなる物価上昇や人件費、物流費などのコスト増を適正に価格転嫁できるよう努めるとともに、家計の引き締めが懸念される状況下において顧客のニーズに速やかに対応できる体制を整えることで、売上増加およびシェアの拡大を図ります。海外では、成長の続く東南アジアにおいて、積極的な設備投資を実施するとともに新規事業の開発に取り組むことにより、規模の拡大を図ってまいります。さらには将来を見据えた事業ポートフォリオの見直しを継続するとともに政策保有株式の見直しを含む資本効率の向上に注力するなど、2026年度を最終年度とする中期経営計画《VENTURE-5》の必達に向けて取り組んでまいります。

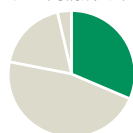
今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



事業概要

容器事業

売上高構成比率



31.4%

容器事業では、食品用缶などの金属容器のほか、PETボトルなどのプラスチック容器や美術缶、スプレー缶といった一般容器などさまざまな容器の製造を行っています。

- 北海製罐株式会社
- 昭和製器株式会社
- 東都成型株式会社



充填事業

売上高構成比率



46.8%

最新鋭の機器で缶飲料やPETボトル飲料の充填を行っています。大手飲料メーカー各社から委託を受け、自社工場と全く同じ規定スペックで、風味や色合いを均一に保ちながら商品を製造することが可能です。

- 株式会社日本キャンパック
- くじらい乳業株式会社
- 株式会社真喜食品



海外事業

売上高構成比率



18.3%

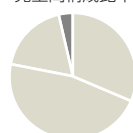
ホッカンホールディングスは日本で培った品質・技術力を活かしベトナム、インドネシアにも進出。人口の増加や経済発展の見込まれる市場として有望視されている地域にもアグレッシブに進出しています。

- ホッカン・デルタパック・インダストリー
- ホッカン・インドネシア
- 日本キャンパック・ベトナム



その他

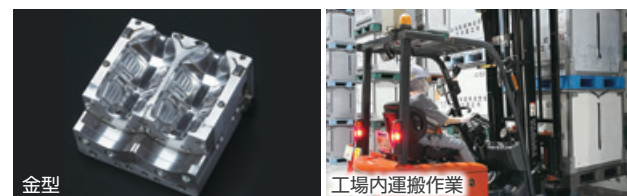
売上高構成比率



3.5%

オーエスマシナリー株式会社およびKE・OSマシナリー株式会社は、産業機械や金型等の製作を行っています。株式会社ワーク・サービスは、工場内の運搬作業等を行っており、グループ各社工場において、運搬作業等の要として展開しています。

- オーエスマシナリー株式会社
- 株式会社ワーク・サービス
- KE・OSマシナリー株式会社



PT HOKKAN INDONESIA (以下、ホッカンのインドネシア社)生産ライン増設

当社グループは、2027年3月期を最終年度とする中期経営計画(VENTURE-5)において「海外事業の拡大」を全社戦略の1つに掲げ、同事業に重点を置いてリソースを振り向けることとしており、中でもインドネシアに注力することとしています。

インドネシアは世界第4位の人口を持つ東南アジア最大の市場であり、今後もさらなる人口増およびそれに伴う経済成長が期待できる有望な市場です。さらに直近ではアフターコロナにおける市場回復が進んでおり、今後も同国の清涼飲料市場も茶系飲料、乳飲料、コーヒー飲料などを中心に大きく伸長が期待できます。

このような状況の下、同国における清涼飲料受託充填のリー

ディングカンパニーであるホッカンのインドネシア社においては、既存顧客からの増産要求に加えて新たな引き合いも増加しております。この傾向は今後も継続する見込みでありますことから、ホッカンのインドネシア社の生産ラインを早期に現行の2ライン体制から3ライン体制に拡充することで、大手顧客の需要を取り込んでまいります。

なお、インドネシア市場の成長は今後も継続することが見込まれ、将来的に顧客需要が本件生産ライン増設分を超える可能性がありますことから、当社といたしましては、今後も同国の成長状況を見極めつつ継続的なリソースの投入を検討してまいります。



建設中の建屋の様子



安全祈願祭の様子

子会社の概要

名称	PT HOKKAN INDONESIA (ホッカンのインドネシア社)		
所在地	Jalan Raya Ciawi Sukabumi (Bitung Sari) KM.3, Ciawi, Bogor, Indonesia		
代表者の役職・氏名	取締役社長 栗原 修		
事業内容	1. 清涼飲料の製造・販売 2. PETボトルの設計・金型開発 3. 清涼飲料のレシピ開発・試験充填		
資本金	575,999百万インドネシアルピア		
設立年月日	2011年7月		
株主構成	株式会社日本キャンパック*	60%	※当社は、その全株式を保有する子会社を通じ、ホッカンのインドネシア社の発行済株式の70%を間接的に保有しています。
	北海製罐株式会社*	10%	
	豊田通商株式会社	25%	
	PT. Toyota Tsusho Indonesia	5%	

設備投資の概要

所在地	Jalan Raya Ciawi Sukabumi (Bitung Sari) KM.3, Ciawi, Bogor, Indonesia (ホッカンのインドネシア社敷地内)		
設備投資の内容	清涼飲料無菌充填ライン		
投資予定額	7,500億インドネシアルピア(約71.4億円) ※1円=105インドネシアルピアにて計算		
資金計画	自己資金および借入金		
操業開始時期	2026年5月(予定)		



スポーツ支援

デフサッカー 松本弘選手 所属アスリートとして採用

北海製罐(株)では、2023年11月よりデフサッカー選手である松本弘選手を所属アスリートとして採用し、活動を応援しています。

PROFILE

デフサッカー選手 松本弘(人事部所属)

ポジション MF(ボランチ)、DF(センターバック)

所属チーム レプロ東京(都リーグ3部)、東京デフフットボールクラブ

昨年の活動 2023年9月にマレーシアで行われたデフサッカーW杯に日本代表として出場し、史上初の快挙となる準優勝達成に貢献。

デフサッカーとは

聴覚に障がいのある選手が行うサッカーで、「音のないサッカー」の愛称で呼ばれています。ルールは基本的に通常のサッカーと同じですが、唯一目に見えて分かるのは、主審が笛ではなく旗を持ち、ファウルの際は旗を振って視覚的情報で試合を進行することです。また、試合中は全ての選手が補聴器を外すことを義務付けられています。選手同士のコミュニケーションはアイコンタクトや手話にて行われます。

サッカー教室の実施

松本選手は、出身校の特別支援学校にて、小中高生を対象にサッカー教室を開催しています。通常月2回開催されるこの教室では、走り方の指導をはじめ、ドリブルやパス練習、試合形式での練習を行っているほか、他校との練習試合も実施していま

す。本活動は12年間継続して実施されており、子どもたちにサッカーを通じて、体を動かすことの楽しさを伝える場となっています。

出前授業の実施

埼玉県(大宮)にある当社事務所周辺の中学校にて、「出前授業」を行いました。

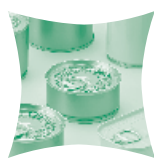
座学では、耳が聞こえない方の体験として身振り手振りのみの伝言ゲームや、どのようなコミュニケーション方法があるかを生徒の皆さんに考え・発表してもらいました。

松本選手がスイスのクラブチームに所属していた時の経験談やW杯準優勝の話を変えながら講義を行い、「自身が耳の影響でいくつもの壁にあたり悔しさもあったが、悔しさを糧にここまであきらめずやってきたことは良かった」「サッカーはミスが生じるスポーツ。チャレンジしなければミスはしないが、チャンスも作れない。強いチームはミスが起きても、仲間フォロー・サポートし、そして仲間を鼓舞することが大切」等自身の体験談を踏まえ話をしました。

また、グラウンドでサッカーボールを使ったトレーニングを行い、時にはアプリを使って質問するなど生徒の皆さんは、熱心にコミュニケーションをとっていました。

当社グループは今後も地域貢献の活動を進めてまいります。





容器事業

売上高 **150億38百万円**
前年同期比 0.1%増

営業利益 **3億84百万円**
前年同期比 46.0%減

メタル缶

エアゾール用空缶につきましては、夏場の猛暑等の影響により、エアコン洗浄剤が好調に推移しましたものの、主力の殺虫剤関連製品やホビー用塗料、燃料ボンベ缶が低調に推移しましたため、前年を下回る結果となりました。

粉ミルク用空缶につきましては、国内の粉ミルク使用率の増加やインバウンド需要等により販売が好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、農産缶詰では前年並みに推移しましたものの、水産缶詰では、製品の販売価格の値上げの影響等により低調に推移しましたため、前年を下回りました。

美術缶につきましては、観光産業やインバウンド需要の増加が寄与するなど、前年を上回る結果となりました。

プラスチック容器

飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、リサイクル材

を使用した耐熱ボトルの受注が好調に推移したこと等により、前年を上回る結果となりました。また、プリフォームにつきましては、前年を上回る結果となりましたため、プリフォームを含む飲料用ペットボトル全体としては、前年を上回る結果となりました。

食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、PET素材の二重構造バリアボトルの大容量容器の販売が好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

その他

その他のプラスチック製容器包装につきましては、農薬・園芸用品の販売が減少したことにより、前年を下回る結果となりました。バッグインボックスにつきましては、外食産業向けなどで好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は150億38百万円(前年同期比0.1%増)となりましたものの、人件費や償却費増加の影響等により営業利益は3億84百万円(前年同期比46.0%減)となりました。



充填事業

売上高 **224億49百万円**
前年同期比 5.3%増

営業利益 **41億87百万円**
前年同期比 15.6%増

缶製品

缶製品につきましては、通常缶では缶コーヒーの販売不振等の影響により前年を下回る結果となりました。リシール缶(ボトル缶)でも、自動販売機の商品の値上げの影響により、前年を下回る結果となりました。

ペットボトル製品

ペットボトル製品につきましては、猛暑による受注

増加により大型ペットボトルおよび小型ペットボトルともに好調に推移しましたため、全体としては前年を上回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造および食品の受託製造を含めた充填事業全体の売上高は224億49百万円(前年同期比5.3%増)となり、営業利益は41億87百万円(前年同期比15.6%増)となりました。



海外事業

売上高 **87億52百万円**
前年同期比 8.2%増

営業利益 **4億52百万円**
前年同期比 23.4%減

インドネシアにつきましては、ホッカン・デルタパック・インダストリ社では、積極的な設備投資と販売戦略によりカップ製品の売上が伸長したため、前年を大幅に上回る結果となりました。ホッカン・インドネシア社では、主要なお客様からの受注減少に伴い、前年を下回る結果となりました。

ベトナムにつきましては、日本キャンパック・ベト

ナム社では、販売が堅調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、海外事業全体の売上高は87億52百万円(前年同期比8.2%増)となりましたものの、原材料費高騰の影響等により営業利益は4億52百万円(前年同期比23.4%減)となりました。



その他

売上高 **16億73百万円**
前年同期比 8.4%減

営業利益 **3億75百万円**
前年同期は営業利益33百万円

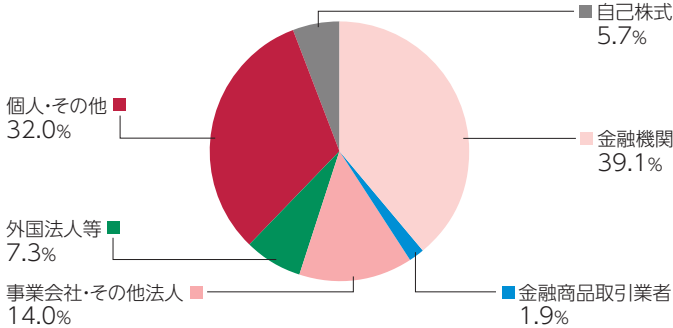
機械製作事業では、産業用機械等の受注増加により、前年を上回る結果となりましたものの、化粧品等製造販売事業を2024年3月29日付で譲渡したことに伴い減収となりました。

以上の結果、工場内運搬作業等受託を含めたその他全体の売上高は16億73百万円(前年同期比8.4%減)となり、営業利益は3億75百万円(前年同期は営業利益33百万円)となりました。

株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	13,469,387株
株主数	21,500名

所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,265	9.96
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	706	5.57
日本生命保険相互会社	654	5.16
株式会社みずほ銀行	494	3.89
ホッカンホールディングスグループ取引先持株会	401	3.16
農林中央金庫	400	3.15
東京海上日動火災保険株式会社	261	2.06
三菱UFJ信託銀行株式会社	247	1.95
福岡パッキング株式会社	215	1.70
株式会社三菱UFJ銀行	208	1.64

(注1) 持株数は千株未満を切捨てて表示しております。

(注2) 当社は自己株式767,167株を所有しておりますが、上記大株主からは除いております。

(注3) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

会社概要 (2024年9月30日現在)

商号	ホッカンホールディングス株式会社 HOKKAN HOLDINGS LIMITED
本社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号 日本橋三井タワー TEL03-5203-2680
設立	1950(昭和25)年2月1日 (創立 1921(大正10)年10月23日)
資本金	110億8,652万4,995円
従業員数	65名(連結 2,215名)
事業内容	●各種空缶・容器の製造 ●飲料受託充填 ●産業機械・金型の製作 他

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 札幌証券取引所
公告方法	電子公告により行う (https://hokkanholdings.co.jp/)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00-17:00(土日祝日を除く)
インターネットホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

役員 (2024年9月30日現在)

代表取締役社長	池田 孝資	常勤監査役	石川 宏司
取締役専務執行役員	佐藤 泰祐	監査役	渡邊 基樹
取締役専務執行役員	多田 秀明	監査役(社外)	鈴木 徹也
取締役常務執行役員	武田 卓也	監査役(社外)	田島 正広
取締役常務執行役員	砂廣 俊明		
取締役(社外)	藤田 晶子		
取締役(社外)	耕田 一英		
取締役(社外)	渡邊 敦子		
取締役(社外)	古川 尚史		



ホッカンホールディングス株式会社

〒103-0022
東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー 13階
TEL 03-5203-2680 (代表)
URL: <https://hokkanholdings.co.jp/>



この冊子は環境への配慮のため、FSC®森林認証紙とベジタブルオイルインキを使用しています。